



11月に入り気温が大きく下がってきました。体調にはくれぐれもお気を付けてください。ジオフィールド2024年6月号(vol.77)ではブラウントラウトや山陰海岸ジオパークのジオサイトで見られる外来種を紹介しました。今号では外来種について深掘りしていきたいと思います。

## 外来種問題とは？

昨今、ニュース番組やSNSで外来種問題が取り上げられることが増えました。一体どのような問題があるのでしょうか。生物たちは自身の限られた移動能力、山や海などの地理的な障壁などによって生息域が制限されています。そのため、それぞれの地域で長い年月をかけてバランスのとれた生態系が形成されてきました。しかし、人類の文明が発展していく中で、多くの生物が人の手によって広範囲かつ短期間で移動できる状態になりました。その結果、様々な地域に容易に移動し問題が起こるようになりました。元の生息域ではバランスの保たれている生態系に組み込まれていた種でも、他の地域に入ってしまうと天敵がいらないなどの理由からバランスを壊してしまいます。外来種問題ではこのようなことが起きており、一度崩れてしまったバランスを元に戻すことは簡単ではありません。外来種が与える影響には様々なものがあり、大きく生態系・人体・産業の3つへの影響が考えられます。それぞれ山陰海岸ジオパークのエリア内での影響と共に説明していきます。

## 生態系への影響

はじめに生態系への影響です。まず1つ目は捕食です。外来種が在来種を食べてしまうことが挙げられます。ペットとして馴染み深いイエネコですが、屋外では在来の小動物たちを襲ってしまいます。2つ目は競合です。外来種によって在来種のエサや生息場所などが奪われてしまうことが挙げられます。河川敷などで黄色い花を付けた背の高い植物がたくさん生えているのを見たことがあると思います。それらは北米原産のセイタカアワダチソウという外来種です。図1のように自然館周辺にも生えており、在来の植物が生息できる場所が圧迫されている様子がうかがえます。3つ目に交雑です。外来種と在来種の間で子どもができてしまうことが挙げられます。中国原産のチュウゴクオオサンショウウオ類は特別天然記念物である在来のオオサンショウウオと交雑してしまうことがわかっており、中部・近畿・山陽地方では野外で交雑個体が見つかっています。山陰海岸ジオパークのエリアには在来のオオサンショウウオが生息していますが、今のところチュウゴクオオサンショウウオ類の侵入は報告されていません。しかし、京都や岡山では生息が確認されているので警戒が必要です。4つ目に感染症です。外来種に伴って移動した外来の寄生生物や菌などが在来種に感染するといったことが挙げられます。



図1. 自然館前のセイタカアワダチソウ

## 人体への影響

次に人体に与える影響です。まず1つ目は咬傷です。外来種に咬まれる、刺されることが挙げられ、種類によっては力が強かったり、毒をもっていたりと非常に危険な場合もあります。セアカゴケグモはオーストラリア原産の小さなクモで、咬まれると毒を注入されてしまいます。鳥取県では2013年に大山町で発見されて以降、散発的に見つかっており、いつどこで見つかるもおおしくありません。2つ目に病気です。外来種自体が病気の原因になったり、外来種が病原菌などを運び感染症のリスクが



図2. セアカゴケグモ

上がったることが挙げられます。ブタクサは北米原産の外来植物ですが、風媒花（風で花粉を飛ばす花）であるため秋の花粉症の原因の一つになっています。

## 産業への影響

最後に産業に与える影響です。まず1つ目は食害です。外来種によって農作物や水産物が食べられることが挙げられます。北・中米原産のアライグマ（図3）は雑食性の上に、手先が器用なため、農作物をなんでも食べてしまいます。鳥取県では県東部を中心に定着しており、岩美町では栽培されているイチゴなどに被害が出ています。2つ目に農地への被害です。畑が踏み荒らされたり、田んぼのあぜに穴を開けられたりすることが挙げられます。3つ目に景観への被害があります。糞尿などで文化財が汚されたり、外来植物が増えすぎて景観が乱されるといった影響があります。近年、松枯れという現象が起きており、多くの地域で松が枯れています。松枯れはマツノザイセンチュウという北米原産の線虫が原因の一つとされ、この線虫に感染すると水を吸い上げることができなくなり最終的に枯れてしまいます。松が衰弱すると、在来種のマツノマダラカミキリがやってきて、幹に卵を産みつけます。樹皮の下で成長した幼虫は木を食べながら成長し、やがて成虫になると外に出てきます。このとき線虫はカミキリの体に移り、一緒に他の松へ移動します。このカミキリの好物は松の若枝の樹皮で、食べた傷口から線虫は松の体内へ移動し、次の松を枯らしてしまいます。このメカニズムが繰り返され、感染が拡大します。浦富海岸周辺でも松枯れが起きており（図4）、千貫松島などを中心にカミキリの防除などが行われています。ジオフィールド 2020年8月号(vol.32)でも松枯れについて紹介しているのでぜひご覧ください。過去のジオフィールドは自然館や自然館HPで閲覧できます。



図3. アライグマ



図4. 駒馳山の松枯れ

## 外来種との向き合い方

外来種は悪者という扱いを受けることがありますが、果たしてそうなのでしょうか。日本の野外に生息する国外由来の外来種は2000種を超えるといわれています。その中には今回説明したように大きな問題を起こしてしまう外来種もいれば、あまり影響のない外来種もいます。石をめくると当たり前のようにいるオカダンゴムシ（図5）はヨーロッパ原産の外来種です。しかし、私たちや生態系への影響はあまりみられず、問題を取り上げられることもありません。環境省は特に注意の必要な外来種をまとめ、生態系被害防止外来種リストを作成しました。その中で国外外来種は約400種が指定されており（未定着含む）、特に影響のある外来種は一部であることがわかります。外来種の被害を防ぐためには影響の大きさに合わせた適切な対処が重要です。私たちが日常的に食べているお米や野菜、飼っているペットなどの多くも外来種であり、私たちの生活に豊かさをもたらしている側面もあるのです。



図5. オカダンゴムシ

ジオパークでは大地の上に自然が成り立ち、さらにその上に我々の生活・文化が成り立っている、そのようなことを楽しく知ることができる場所です。外来種問題や気候変動など自然を取り巻く状況には厳しいものがありますが、私たちの生活・文化の土台でもある自然環境を守ることが求められます。（久野）

【参考】日本生態学会編集、村上興正・齋谷いづみ監修、外来種ハンドブック、株式会社地人書館、2002。  
外来種被害防止行動計画 <https://www.sendai-n.com/news/2288/>  
環境省外来種写真集（図2、3を引用） <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>

### 海と大地の自然館 今後のイベント

12/15(日) クリスマスとお正月飾りをつくろう！

12/1 受付開始

12/21(土) 山陰海岸ジオパークみんなでおしゃべり7  
～砂が語る地球の過去、未来～

12/15 締め切り参加者募集中

詳細はこちら→

